

みやぎ生協 福祉活動助成金 助成活動報告書

団体名	発達支援ひろがりネット	
代表者名	代表 中嶋 廉（シエルの会 会長）	
連絡先（みやぎ発達障害サポートネット）	TEL：022-341-0885 FAX：022-341-0895	E-mail mddsnet@yahoo.co.jp

1、助成事業報告

助成を受けた事業名	「さまざまな個性や困り感をもつ生徒を支えるために」をテーマに開催した支援情報交換会内容の冊子化
事業の目的	本事業は、ヒヤリング調査結果や各高等学校の一人一人を大切にした取り組みに関する情報を提供し、高等学校における通級指導の理解を深め、中学校から次のステージを選択する際の手立ての一助となることを目的とする。 作成した冊子を県域中学校及び高等学校に広く提供することで、通級指導に関する理解が図られ、発達障害のある本人及び保護者は、安心な高校生活をイメージできる機会となる。 また、成人期を見据えた生活を考えるきっかけとなる効果を期待し、宮城県におけるインクルーシブ教育の発展に寄与したい。
事業の具体的内容	宮城県高等学校における発達障害の支援についての理解を深めるために、2021 年度並びに 2022 年度の支援情報交換会を、「さまざまな個性や困り感をもつ生徒を支えるために」というテーマで実施した。 ここで提供した内容である、学校づくや実践の普及を図ると共に、高等学校で学びたいという願いをもつ中学校生徒や保護者の選択肢の一助となることを願い、冊子づくりを進めた。 装丁：A4 カラー版 52 頁 掲載内容：①ヒヤリング調査結果とまとめ ②宮城県内の高等学校における「通級指導」 ③4 校の実践発表からを編集 ④発達支援ひろがりネットについて 印刷部数：400 部
活動の開始から完了までの流れ	2023 年 【3 月】9 日 運営委員会にて本事業贈呈式の報告 冊子づくりレイアウトの確認と役割分担 作成・送付日程について

	10 日～30 日役割分担した各担当毎に打合せ 宮城県教育委員会・実践発表高等学校 校へ掲載確認の連絡 【4 月】10 日 冊子づくり話し合い・進捗状況と作成日程 の変更部分について 20 日 表紙デザイン・各原稿完成 30 日 実践発表校からの掲載確認終了 【5 月】上旬 レイアウトをもとにページ割り振り 19 日～運営委員会を経て、データ化した冊子の 修正開始 【6 月】7 日 印刷会社に仮発注・印刷代支払 17 日～印刷会社に確定データを送付・印刷 26 日 冊子発送作業 1 宮城県内の中学校 2 宮城県内の高等学校 【7 月】10 日 宮城県教育委員会・仙台市教育委員会に 冊子の贈呈 20 日 運営委員会 報告書作成に向けた本事業の振返り 26 日 冊子発送完了 1 仙台市内の中学校
活動の成果と教訓	1 初めに、「冊子づくり」という本事業の取り組み以前 にみられた成果を述べたい。 ①ヒヤリング調査において、9 校の取り組みを丁寧になら うかがうことで、各校の具体的な実践の様子を把握する ことができた。 ②各校の学校づくりに向けた心意気が印象的で、先生方 の働きかけに人間的な共感を得ることができた。 このような思いを「冊子」に乗せて届けたいと願った 事業であるが、今後多くの方からの意見を期待するもの である 2 平成 19 年高等学校に行ったアンケート調査「高等学 校における発達障害をもつ生徒の受け入れ状況」や、令 和 2 年支援情報交換会「障害のある人が働き、働き続け るために」から見えた課題を踏まえた本事業は、発達障 害をもつ生徒への系統的な取り組みとして意義がある ものと捉えている。
今後の展望など	1 R5 年 11 月開催発達障害学会にて、ヒヤリング調査を 踏まえた一考察を発表する。 2 当ネットワーク活動の一環として「支援情報交換会」 の開催を継続する。 3 小・中学校の通級指導教室に焦点を当てた実践発表を 実施し、通級指導の実際を広く理解する機会を提供す る。

2、助成金使途報告書

■ 収入の部

確保した資金内容	金額（円）	備考
福祉活動助成金	100,000 円	冊子印刷・製本代
仙台みどりと風の会・市民活動賞	100,000 円	事務用品・荷造運搬代
自己資金	3,487 円	
合計	203,487 円	

■ 支出の部

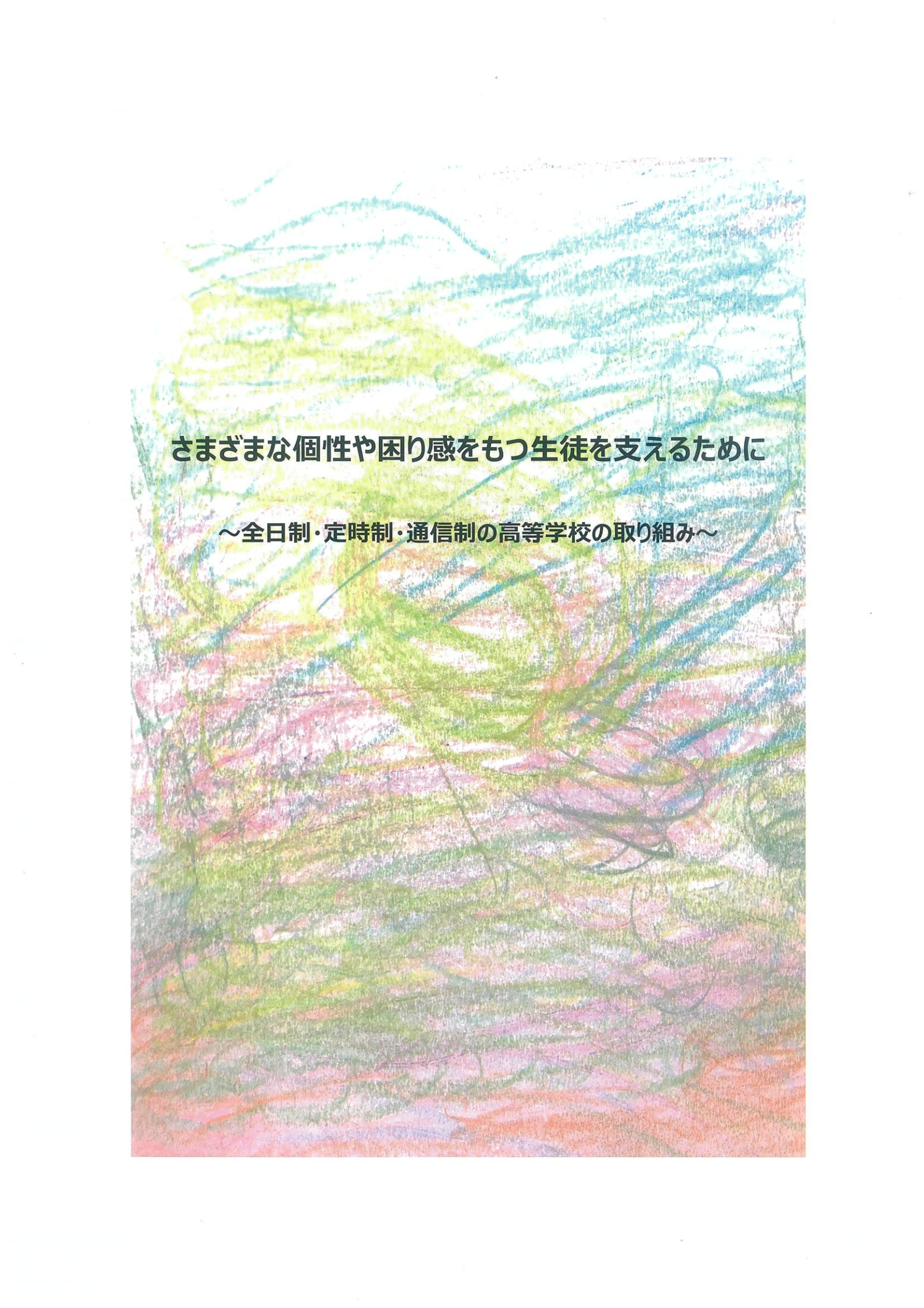
費目	内容	予算額（円）	実支出額
印刷・冊子製本費	A4 カラー版・52頁 400部	113,000	121,347 円
事務用品費	宛名シール 封筒角2	12,000	7,140 円
荷造運搬費	冊子郵送切手代	75,000	75,000 円
合計		200,000	203,487 円

*用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。

【助成金使途報告書に係る添付領収書について】

次のような事由により、領収書のコピーは、費目「印刷・冊子製本費」のみ別郵送いたします。

- 1 申請時において、みやぎ生協福祉活動助成金は冊子印刷代としている
- 2 実支出額は 121,347 円となり、福祉活動助成金 100,000 円全額を使用する
- 3 添付領収書の領収額 121,347 円に含まれている
- 4 印刷費不足分、事務用品費、荷造運搬費については、確保した他団体からの資金及び自己資金を使用する
- 5 事由 2、4 により領収書はみやぎ生協福祉活動助成金の支出額のみとする



さまざまな個性や困り感をもつ生徒を支えるために

～全日制・定時制・通信制の高等学校の取り組み～

この報告書は、仙台みどりと風の会・市民活動応援賞並びに
みやぎ生活協同組合・2022 年下期みやぎ生協福祉活動助成金を
いただき作成いたしました

はじめに……報告書作成の経緯について

この報告書は、高等学校における特別支援教育と通級指導の現状について、当
会が全日制・定時制・通信制の県立高校と仙台高等専門学校が宮城県内8校から
ヒアリングした調査の報告と、2回にわたり開催した支援情報交換会における宮
城県教育委員会、貞山高校、松山高校、東松島高校、仙台高等専門学校の発表を
まとめた記録です。

当会は、2006年に発足して以来、当事者と保護者に役立つ情報を提供する
支援情報交換会を開催してきました。第12回支援情報交換会(2020年)
を、就労支援をテーマに開催したところ、発達障害のある人の雇用を進めている
民間企業の方から、高校における支援の重要性をあらためて指摘されました。

そこで2021年の7月から県立高校と仙台高等専門学校のヒアリング調査
に取り組み、2022年2月6日の第13回支援情報交換会では県教委と貞山
高校および松山高校から、同年6月5日の第14回支援情報交換会では東松島
高校と仙台高等専門学校から、それぞれの取り組みを発表していただきました。

教育現場での実践と学校づくりの報告は、参加した保護者に感銘を与え、「ご
紹介いただいたような特別支援教育や通級指導が広まることで、先生方や、生徒
さん方が社会に出て発達障害に対する理解や支援の方法が広まり、わが子も含
め発達障害の特性がある人たちが生きやすい社会になっていくのではという希
望が持てました」という感想が寄せられました。高校教師から、「どのように対
応すれば良いのか試行錯誤中なので、実践例を発表していただき、大変参考にな
りました」と、感想が寄せられました。自治体職員から「高校の通級について学
ぶことができ、貴重でした。高校卒業後のことも当センターとしては考えていき
たいと思っています。松山高校や貞山高校の実践は目からうろこでした」と、感
想が寄せられました。

しかし、新型コロナの流行の下で、参加者は限られたものになりました。そこ
で、学校現場の努力をより多くの人々に知っていただくとともに、高校における
特別支援教育が充実していくことを願って、この報告書を作成いたしました。

ヒアリング調査は、宮城県教育委員会に趣旨をご理解いただくとともに、多忙
な中で調査を受け入れていただいた各学校のご協力で実現したものです。支援
情報交換会にあたっては、発表者の方々に、それまでの実践を整理し、発表資料
を用意していただきました。報告書の作成にあたっては、仙台みどりと風の会並
びにみやぎ生活協同組合から助成金をいただきました。

関係するみなさまに、心からの御礼を申し上げます。

発達支援ひろがりネット 2022年度代表 中嶋 廉

目 次

はじめに

ヒヤリング調査結果（概要） 1

2022.2.6 第13回支援情報交換会から

宮城県高等学校における特別支援教育と通級指導 10

宮城県松山高等学校 14

宮城県貞山高等学校 25

2022.6.5 第14回支援情報交換会から

仙台高等専門学校 広瀬キャンパス 34

発達支援ひろがりネットの活動について 41

おわりに

「さまざまな個性や困り感を持つ生徒を支えるために」

～全日制・定時制・通信制高校の取り組み～ヒヤリング調査結果（概要）

1 ヒヤリング調査と目的について

支援情報交換会のテーマを、高等学校における特別支援教育にした経過は、2019年11月2日に開催した第12回支援情報交換会、「障害のある人が働き、働き続けるために」をテーマにしたシンポジウムから始まっている。就労支援に取り組んでいる行政機関の方から、「就労前の自己理解、職業観の育成が大切だ」という意見が出された。障害のある人の雇用を進めている民間企業の方からは、「仕事で失敗したり、困ったことが起きた時に、『どうしたらいいでしょうか？』と、周りの人に相談するスキルをもっていれば、なんとか働き続けてもらうことができる」。また「社会に出る一歩手前の、高等学校の教育で、その辺の工夫をしていただくことはできないものか」との意見があった。

そこで、今回の支援情報交換会のテーマを「高等学校における発達障害のある生徒の支援」と定め、発達障害に限らず、さまざまな困り感や個性をもっている生徒に、高等学校の先生方がどのように向き合っているか、学校づくりの取り組みや特別支援教育の実践を学ぶ活動に取り組むことにした。

当会員団体である「シエルの会」は、知的な遅れがない自閉症スペクトラム障害の子どもをもつ保護者の会では、「うちの子どもの進学させる高校が見つからない」と訴えられたことをきっかけに、高校生の子どものもつ会員に集ってもらい、中学生の子どものもつ会員にそれぞれの高等学校の実情をお話ししてもらう会を、何回か開いたことがある。

本日の支援情報交換会が、高等学校で学びたいという願いをもつ生徒とその保護者のみなさんを励まし、学校選びを考えるうえでお役に立てることを願うものである。

学校づくりの取り組みや特別支援教育の実践を教えていただくことは、教育行政と学校現場のみなさんのご理解、ご協力がなければできないことで、宮城県教育庁の特別支援教育課に相談した。さいわいなことに、大きなお力添えをいただき、県立の8つの高等学校からお話を聞かせていただくことができた。

2 ヒヤリング調査対象

宮城県泉松陵高等学校
宮城県貞山高等学校、
宮城県東松島高等学校
宮城県田尻さくら高等学校
宮城県中新田高等学校
宮城県松山高等学校
宮城県蔵王高等学校
宮城県美田園高等学校

県立高校の他に、仙台市青葉区愛子にある仙台高等専門学校も訪問調査